

福井すすめる会ニュースをもう1本掲載します。福井ではこれをはじめでの、議員懇談の報告です。ここでも生徒・父母・教職員・卒業生の四者でとりくみ、当事者の「ナマの声」を直接伝えられたことが重要です。

福井県私学の公費助成をすすめる会

# すすめる会NEWS

Issue No. 9 | 2024. 3月号 | 第一回議員懇談会

## 初めて議員懇談会をしました！



2月27日、福井県議会議員の清水智信氏と懇談をしました。福井県では議員懇談をするのは初めてです。今回は自主活動にとりくむ生徒2名と父母2名とともに懇談に臨みました。そのため、生徒・父母・教職員・卒業生の四者で私学助成制度や学校や家庭の状況を清水議員に伝えることができました。

まず、すすめる会から就学支援金制度と経常費助成制度についての説明をして、生徒と父母からは学校での学びや家計の負担の実態を語っていました。主に父母からは、現在無償化になっている授業料以外でかかってくる経費について、「修学旅行に向けての積立や特別進学コースの課外授業の集金などは生活費から削らないと家計が厳しい」や「制服代もとても高いし、英語留学コースやグローバルサイエンスコースになると、そのコース独自の学びのためのお金がかかってくる。学びたいものを学びやすくできるようにしてほしい」との発言がありました。それに対して議員から、「理事長に言えないものか」との反応がありましたが、そのことが学校運営費に関わる経常費助成に関わってくる問題につながると話が進んでいきました。

続けて生徒から2023年全国高校生一万人アンケートの結果から、私学に入学したことによりしんどさを感じている高校生が多くいることや、友人にも同じような状況の子がいることが伝えられました。また、経常費助成が削られることによって生まれる弊害として、非正規雇用の先生が増えることについて、学校で学ぶ主体として感じることを伝えてもらいました。「1週間の授業時間数の50%が非正規雇用の先生です。そうすると、放課後にわからないところを聞きたいと思った時に、聞けないということがたくさんあります。」という発言や「非正規雇用の先生を見ていると、すごく疲れているように見えます。」という非正規雇用の先生と身近に接しているからこそわかることを伝えていました。

清水議員からは、学校の運営費に対する助成の議論ができていないことや、知り合いが非正規雇用の教員として働いているが、なかなか正規雇用になれないと言っていたというエピソードが話されました。そこで、愛知県では正規雇用の教員を増やすと経常費助成に加算配分がある制度の話をする、とても関心を示してくれました。

## 感想

生徒S: (前略) 自分の言葉で自分の思いを精一杯伝えられたなと思いました。今回は第三者からの意見を聞いて改めているんな人の意見を聞くことの重要性を感じました。そして高校生の声を届けるための代表としてあのような場に参加できたことが嬉しかったし、次に繋げられるものになりたいなと思いました。

父母A: まずは、県議会議員との懇談の場をもてたことがすごく大きな一歩だと感じます。このような機会をいただきありがとうございます。また、行く前に清水議員のことをもっと知ってから行けばよかったと思いました。

生徒A: 初めて、県議会議員さんに私学助成の現状について伝える機会をいただけてとても良かったです。詳しい情勢や、経常費助成のことなどはご存知でない様子だったので、やはり伝えていくことが必要なんだと感じました。また、伝える難しさも感じました。(中略) どうやってこのことの重要性や本質をみてもらって自分ごとにしてもらえるのか、とても難しいことだと思いますが、これから考えていかなければと思います。(中略) 自分は高校生の立場で話したけれど、もっと言えることがあったのではないかと思います。自分がどうなのかとか周りやどうなのかとか、アンケートで集めたようなマナの声を重視して伝えたいと思いましたが、やはり当事者の意見は大切なので、データだけではなく、当事者の声を届けられる場があるのは大切だと思います。(中略) これから他の議員さんにも話してみたいとおもいました。

